

(第3種郵便物認可)

2008年(平成20年)4月13日(日曜日)

読

書

新

聞

日本人の意識と行動

谷岡一郎、仁田道夫、岩井紀子編

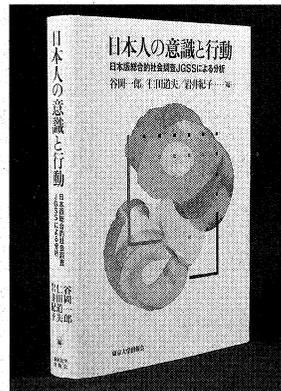
東京大学出版会 7200円

評・磯田道史(日本史家)

社会学者は因果な商売だ。社会調査と称して、赤の他人に「あなたの年収はいくら? 学歴は?」どの政党を支持しますか?」などと訊いてまわる。しかし、この調査は、社会の隠された真実を教えてくれる。

日本には、ずうずうしい質問をするが決定的に役立つ社会調査が2つある。ひとつは1955年からやっている「社会階層と社会移動(SM)調査」。SSM調査のおかげで、ぼくらは「格差の拡大」をいち早く察知できた。はやく察知できれば対策もとれる。10年ごとに出るSSM調査の成果は貴重だ。

介護、結婚……実態示す



うに教授大
ろに教授大
いちにお大
・みちお東
・いわい・のり
◇たにおか
=大阪商大
◇た・みちお
◇い・いわい
阪商大教授

しかし、2000年から、もうひとつ「日本版総合的社会調査(JGSS)」というすごい調査がはじまった。調査対象は約5千人、有効回答は約3千人。JGSSはSSM調査よりも、さらに立ち入ったことを訊く。「世帯構成、就業や生計の状況、両親や配偶者の職業」はもちろん、本人の思想信条にかかわる「政党支持、政治意識、家族観、人生観、死生観、宗教、余暇活動」まで尋ねる。

本書はこのJGSSの第一期(2000~03年)調査結果である。小泉改革のこの時期、日本人には明らかな意識変化がみられた。まず人生の「幸福は結婚にある」と考える人が激減した。家族形成が幸福を意味しなくなったのだから、当然、独身で老後を迎える人が増える。そのなかで、さらに重大な意識変化が起きている。高齢者の生活保障や介護はもはや個人や家族の責任ではない。国や自治体の責任だ。そういう意識が日本人のあいだで急速に高まってきている。かつての日本人は、政府の仕事は道路建設、老人の扶養介護は家族の仕事と考えていた。しかし、そんな日本人はいなくなってきた。政府の役割は、時代によって変わる。変われない不賢明な政府をもった国民は地獄をみるのが歴史の教訓だ。調査結果を読んで、はやく、手を打たなければ、まずい、と感じた。

この記事は読売新聞社に許可を得て転載しています。
<http://www.yomiuri.co.jp/policy/copyright/>